

出題傾向

大問三題で、大問㉑が1500字程度の随筆的な文章の読解問題、大問㉒が1800字程度の論理的な文章の読解問題、大問㉓が文の整序問題と語彙問題という構成である。それぞれに10問程度の小問があるが、すべて5肢択一式の選択問題で、合計29の問題数である。問題文が比較的短く読みやすいものであることや、設問が基本的なものであることから、全体的にはやや易しいレベルといえる。基本的な国語力がきちんと身につけているかどうかを測ることを主眼に置いた出題の傾向が見て取れる。大問ごとの特徴は以下のとおりである。

大問㉑は、福岡伸一『やわらかな生命』からの問題文である。宮沢賢治が詩のなかで描いた「青」という色から生命観へと思索をめぐらせた内容の文章で、適切な接続語などの空欄補充、傍線部についての理由説明や内容説明といった形式の読解問題である。読解に絡めた漢字の選択問題、作品名を問う国語常識の問題も出題されている。

大問㉒は、山極寿一『「サル化」する人間社会』からの問題文である。サル社会との比較から人間社会における家族について考察した内容の文章で、傍線部で述べられていることの背景にある筆者の考えを問うという形式の読解問題が中心となっている。脱文補充とは別に結びの一文を入れる空欄補充問題が設けられていることや、段落の役割を問う問題や文章構成に関する問題があるのが特徴として挙げられる。

大問㉓は、300字程度の文章に続く文を論理に即して並べ替える問題と、漢字の正しい読み書きや言葉の使い方、外来語の意味・用法、敬語の正しい使い方を問う語彙問題からなる。後者については、ほとんどの設問が「適切でない」ものを選ぶ形式であるということが特徴として挙げられる。

学習対策

語彙問題のウェイトが高いので、まずは漢字と語句の問題集を使って演習を重ねよう。出題形式は選択式であるが、漢字の書き取りが正確にできるように、実際に書いて学習するのがよい。漢字の読み書きができるようになると、その意味を理解して言葉を正確に使いこなすことができるようになる。特に大問㉓の語彙問題では誤字や誤用が問われているので、その対策としては、漢字を語彙として捉え、その意味を文脈のなかで覚えるようにすることが必要である。漢字力は語彙力であり、語彙力は読解力の基礎になるものでもあるので、まずしっかりと漢字学習に取り組んでほしい。なお、外来語に関する問題も出題されているので、日ごろから外来語にも注意して、辞書などで正しい意味を確認しておきたい。また、敬語の正しい用法も問われているので、実用国語向けの問題集も仕上げておくとよい。

読解問題の対策は、上に述べたような語彙力をしっかり身につけた上で取り組みたい。まず、基本レベルの問題集で問題文を正確に読む練習から始めるとよい。段落ごとの要点を捉え、段落と段落の関係を捉え、全体がどのように構成されているのかを見極めて、100字要約をするという練習を積み重ねていくとよいだろう。文章を正確に読み解くことができれば、設問に答えるのは難しいことではない。正解選択肢を見分けるためには、筆者が述べている文中の言葉のなかに根拠を探すという練習が有効である。また同時に、誤選択肢の誤りの箇所を指摘する練習をしていくとよいだろう。もちろん、問題意識をもち、幅広く読書して人間や社会に対する思索を深めておくことも大切である。

国語力を鍛えることは思考力を伸ばすことにつながる。国語力は思考力でもある。それだけに国語力を鍛えるための近道はない。遠回りをしてもしっかり取り組んでいくことが、力を確実に身につけていく方法なのである。